



## 「南佐渡の自然環境とトキを考える集い」が開催されました!

南佐渡地域に定着しつつあるトキと、周辺を取り巻く自然環境の現状を話し合う「南佐渡の自然環境とトキを考える集い」が、南佐渡の自然を愛する会が主催、佐渡市とトキの野生復帰連絡協議会が共催、環境省佐渡自然保護官事務所が後援して、2月21日羽茂農村環境改善センターにおいて開催され、およそ50名の方が参加しました。

この集まりでは、南佐渡地域へのトキの飛来という、当初、想定されていなかった出来事が地域住民や農家に与えている影響や今後の方針などが話し合われました。

地元羽茂地区のトキ・ボランティアモニターによる南佐渡・羽茂川流域に



おけるトキの行動の説明のほか、「トキの現状」と「佐渡市のトキに対する方向性について」それぞれ環境省と佐渡市より説明がありました。

参加者からは、「ドジョウは、冬眠中どのように呼吸をしているのか?」「餌生物の好む、田んぼの管理方法は?」「トキが、突然の事故に遭った場合の対処方法は?」など多くの質問が挙げられ、活発な話し合いが行われました。

南佐渡の自然を愛する会では、地元農協や学校とも連携して、「トキの勉強会」を南佐渡各地で続けていくとのことでした。

### ◆市役所 トキ共生・環境課

☎ 63・3113



佐渡トキファンクラブ  
http://toki-sado.jp/fanclub

### 佐渡トキファンクラブに入ろう!

- ・毎月1回、トキの最新情報やイベント案内、ボランティア募集、プレゼント企画などのお知らせメールが届きます。
- ・人数限定のイベントなどで、ファンクラブ会員限定やファンクラブ会員優先の企画があります。



## 世界遺産登録に向けて

佐渡市歴史的建造物悉皆調査①

### ○調査の目的

佐渡には、江戸時代から続く旧家や商家、神社、寺院など、将来に継承していくべき多くの文化財があります。そこで佐渡市では、この掘り起こしと保存活用のため、基礎データの収集を目的とした歴史的建造物調査(寺院建築)を、平成20年度から実施しています。今回は、金井地区の調査結果の一部をご紹介します。

### ○正法寺(佐渡市泉)

正中元年(1324)開基と伝わる曹洞宗寺院で、永享6年(1434)、佐渡に流された世阿弥が、金井新保の万福寺から泉に移ったときの配所であったといわれています。境内に世阿弥の腰掛石があり、寺宝に世阿弥が身に付けて雨乞いの舞を舞ったとされる「神事面べしみ」(県指定有形文化財)が残されています。『金澤村誌稿本』には本堂は享保6年(1721)、観音堂は建築年月不詳とあります。今回の調査によつて、本堂の建築年代に誤りがないこと、観音堂の建築年代が元禄年間(1688~1704年頃)であることが明らかになりました。



### ○大聖院(吉井本郷)

建長2年(1250)開基と伝わる真言宗寺院で、文禄3年(1594)の記録には未

寺12ヶ寺を持つ大寺院であったことが記されています。江戸時代に入り、正徳4年(1714)と寛政年間(1789~1801)の2回、火災に遭っています。今回の調査によつて、山門・本堂・庫裡3棟の年代は1700年代初期から中期、それ以外の建物は1800年代初期から中期であることがわかりました。その結果、山門・本堂・庫裡の3棟は寛政年間の火災を免れて現存していることが確認されました。

### ○大慶寺(金井新保)

真言宗寺院で、天正年中(1573~92)まで金北山権現の事務を司る列当であったといわれています。当初は雲上寺と称しており、寛永2年(1625)に長福寺となった後、享保元年(1716)に大慶寺(現大慶寺)となりました。『金澤村誌稿本』によると、文政元年(1818)に火災に遭い、現在の建物は同6年に完成したとあります。調査の結果、本堂・山門2棟は1800年代中期の再建であることに加え、島内を代表する大規模なものであることが判明しました。



### ◆市役所 世界遺産推進課